東安居公民館

東安居公民館「福井学事業」歴史勉強会

～ 紫式部・源氏物語と地区のつながりを探る ～

千年の時を超えて読み継がれる「源氏物語」。貴族の恋愛模様と共に紫式部が描写した平安文化の影響は遠く越前・若狭にまで及んでいる。現に朝倉遺跡の濠の中からは、源氏第４帖「夕顔」の作中歌「山のはの心」の文字が書かれた木簡が見つかっている。NHK 大河ドラマ「光る君へ」で描かれる文化や風習、そして朝倉家でも多く伝えられている証を探り、東安居地区に跡地が残る戦国時代に栄えた「安居弘祥寺」と源氏物語との繋がりその功績の偉大なることを学ぶ。

～ 弘祥寺の立地造成と建築の配置 ～

福井市東安居公民館
福井学事業　歴史勉強会

令和６年11月10日（日）
於　東安居公民館　ホール

紫式部・源氏物語への憧れ
～ 戦国時代・安居弘祥寺～

1 『源氏物語』享受の環境
2 『源氏物語』を求める
3 戦国の源氏憧憬
4 月舟寿桂と安居弘祥寺

一乗谷朝倉氏遺跡博物館
学芸員　宮永一美

4　月舟寿桂と安居弘祥寺　～紫式部の由緒を辿る～

月舟寿桂（1470～1533）

五山僧、越前に度々下向し、朝倉一族・家臣や越前に住む人々と交流し、滞在中は弘祥寺や含蔵寺に寓した。

『幻雲北征文集』には、越前の人々に頼まれて書いた漢詩が多数載る。

「題安居正翁居士一字参拝法華後」

…安居藤氏淳景居士、号曰正翁、平日処俗而真也、公務之暇、渇仰仏乗、専信法華、或読誦焉、或書写焉、可謂稲本、丙寅（永正３・1506）正月、予以有来縁、寓安居河上寺金剛院、拝大医王（薬師如来）、修香火因者一七日也、…

『幻雲詩藁』

山奇水怪甲天下者、越之大治也、縦潮于東、筆州于西、二水争流、映帯其間、皇明張徳瀾題詩、以擬寒山寺、寒一時美談、長享初元（1487）、余遊此地、瑞巣老人相迎一咲、顔如故旧、話話就睡、月落鐘残、蓋領絶所調夜半鐘乎、因作小詩奉呈老人、

二水源天一色秋、御舟載月往来舟、江山都勝寒山寺、唯有篷声無客愁。

中国筆州の寒山寺を詠んだ漢詩「楓橋夜泊」になぞらえて弘祥寺を詠む。

4　月舟寿桂と安居弘祥寺　～紫式部の由緒を辿る～

○朝倉家臣印牧美次、紫式部の跡を暮う

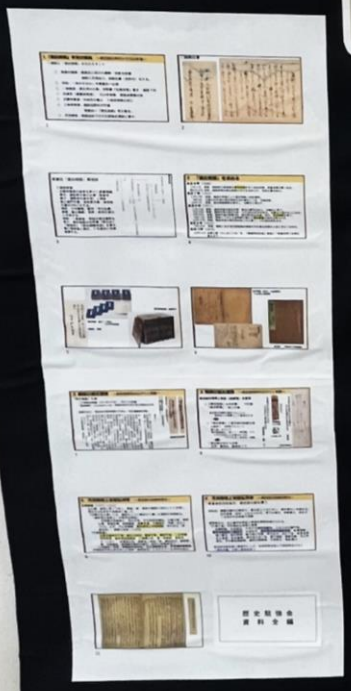
印牧氏…朝倉氏譜代の家臣で、青木氏とともに代々、府中奉行人を務める。
初代孝眼（英林）に仕えた広次、息子の美次、宇野景久、西広ら
３兄弟が文武両道で活躍

長男美次は、五山僧月舟寿桂に寿像の賛詞を授けられる。

『幻雲文集』印牧梅岩全秀居士寿像

紀綱明整、文武相加、千句万句連歌飛翔、二代八代大難不可、
紫式部跡地入観音門、秋台秋月、読光源氏読源氏物語、彩筆絢爛一
越之藤氏、美次寿像、諸子団之求賛、賛父広次、応仁丁亥、在東洛南
日夕苦戦、名於鎧後、美次当大永丁亥、陣于西都、崩有功勲、天之所
感也、予今観老梅筆硯、曠然旧観惟数、不覚詩之、強乱道云。

紫式部の跡を暮い観音門に入り、光源氏詞を読んで般若湯をひらく
「源氏供養」と同じ意味を持つ



「歴史勉強会・視察研修」
～　三井寺・石山寺　～
令和６年１１月１７日（日）

ひがしあご　まちあるき会
東安居のむかし・今・みらいを歩く

あなたがまだ知らない
東安居を一緒に見つけ
てみませんか。

ふくい
SDGs
パートナー